

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!  
★幅広いネットワークを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!  
☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

## 史料ネット News Letter

第57号 2009年5月29日(金)

発行：歴史資料ネットワーク



▲ 地域史卒論報告会のようす  
(2009年3月8日)



▲ 兵庫津歴史講演会のようす (2009年2月7日)

### ■ □ ■ 目 次 ■ □ ■

#### 巻頭言

大規模災害時の歴史資料保全のあり方を学ぶ

一岩手・宮城内陸地震の取り組みを通して一  
奥村 弘…2

兵庫津歴史講演会開催される

中野 賢治 …9

#### ◆ ◇ 特集 ◇ ◆

#### 第4回 地域史卒論報告会

|             |         |
|-------------|---------|
| 概要          | 森脇 崇文…4 |
| 地域史卒論報告を終えて | 檜垣 和志…5 |
|             | 山田 美佳…6 |
|             | 森田 順子…7 |

#### 【特別寄稿】

産業技術史資料の廃棄が残した課題

廣川 和花 …11

## 大規模災害時の歴史資料保全のあり方を学ぶ

### ー岩手・宮城内陸地震の取り組みを通してー

歴史資料ネットワーク代表 奥村 弘

歴史資料ネットワークは、この間大規模水害等を想定して、そのとき水損した古文書等をいかに保全していくかを、体験的に知っていただくためにワークショップを行ってきました。和紙や和綴じのサンプルを水に濡らし、ここからペーパータオル等で水分を抜き取っていくという作業を通して、歴史資料保全についての基礎的な技術を身につけていただくとともに、歴史資料保全についての認識を深めていただくというものです。

学部生や大学院生だけでなく、博物館の学芸員や歴史に興味をお持ちの地域の方々にもワークショップに参加していただいて、好評を得ています。参加された皆さんは、歴史資料について、お互いに色々な話をしながら、水分を取るための作業をされています。私自身、このような場に参加することで、言葉だけでなく、作業を通して学ぶことの重要性をいつも認識させられています。



水損史料修復ワークショップ 2009年3月2日(月) 早稲田大学教育学部  
(主催：早稲田大学教育・総合科学学術院大橋幸泰研究室)

私たちはこのような経験から、水損史料だけでなく、地震時の緊急の史料保全とそれに伴う調査についても、ワークショップ的な取り組みが出来ないかと考えてきました。その際、注目したのは宮城資料ネットワークの活動です。

宮城資料ネットは、宮城県北部連続地震、岩手・宮城内陸地震と、この間二度の大地震を経験しました。その中で、阪神淡路大震災以降の歴史資料保全についての方法を、地域に即した形で深めています。そこで展開された史料保全論は、一般的な歴史資料の調査を考える際にも、重要な視座を提供するものともなっています。

今回、総会後の催しは、いつもの講演会ではなく、この宮城資料ネットの歴史資料保全の方法を、実際の古文書を使って、ワークショップの形で学ぶというものになっています。歴史資料ネットワークとしては、はじめての取り組みであり、参加された皆さんで楽しくこの作業が出来ればと考えております。

歴史研究者や学芸員だけでなく、災害時における史料保全について興味関心をお持ちの方ならどなたでも参加可能です。ぜひご参加ください。お待ちしております。



「水害から歴史資料・書籍・写真をまもる」フォーラム 3月29日（日）深江会館

主催：兵庫県内5大学文化財系連合

（神戸大学・関西学院大学・甲南大学・神戸女子大学・大手前大学）

共催：大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター

## 第4回 地域史卒論報告会

森脇 崇文

2009年3月8日（日）、西宮大学交流センターにおいて、神戸史学会と共催のもと、恒例の「地域史卒論報告会」が開催されました。この地域史卒論報告会は、卒業論文を書き終えて社会人となっていく学生を報告者として、地域の人々を前にこれまで研究してきた内容を報告してもらうというもので、今回で第4回となります。

今年度は、檜垣和志さん（大阪大学）による「中世興福寺の<sup>だいしゅう</sup>大衆統制」、山田美佳さん（神戸大学）による「明治末期新世界確立過程にみる大阪市政の動向」、森田順子さん（神戸大学）による「大正期の地方鉄道敷設過程にみる地方政治状況―出石鉄道を中心に―」という三本の報告がおこなわれました。檜垣さんの報告は、中世前期における大和国興福寺内部での大衆（僧侶集団）の動向と、寺院上層部による統制を丹念に解明したもの。山田さんの報告は、二〇世紀初頭におこなわれた内国産業博覧会の跡地利用をめぐる紆余曲折を追いかけて、そこから大阪市政内部の状況を見通すもの。そして森田さんの報告は、かつて兵庫県北部に存在した出石鉄道を題材に、「地域の鉄道」をめぐる村々の協力と対立を描き出すものでした。それぞれにとっても興味深く、また研究としての水準も非常に高いものでした。

しかし一方で今回の卒論報告会では、報告者である学生と一般の参加者の間に、ある種のすれ違いも垣間みえたように思います。研究史的に意義深く、精密な実証がなされた論文でも、それだけではまだ足りない。専門用語も研究史も知らない一般の人たちに、それでも研究の「面白さ」を伝えなければならぬ。研究成果を地域に還元するというのは、そういうことなのだと改めて知ったと思います。この点は主催者である史料ネット委員がしっかりと受け止め、来年以降の報告者にどんなアドバイスをしていくかが重要となってくるでしょう。

ともあれ、今回の地域史卒論報告会も盛況のうちに幕をとじる事ができました。ここでの報告内容が参加した人々を通じて地域に還元され、また報告者が今回の経験を通じて今後多少なりとも歴史への興味を持ち続けてくれたならば、

この会の目的は達成したといえるでしょう。来年度以降のこの時期にも、活気溢れる卒論報告が聞かれることを、今から楽しみにしております。

(もりわき・たかふみ／歴史資料ネットワーク運営委員)

## ■ 地域史卒論報告を終えて

檜垣 和志

今回、卒業論文を報告する機会が与えられた事は私にとって喜ばしい事でした。一年という長い期間をかけて取り組んできたので、喜びもひとしおです。

一方では報告によって学んだこともあります。一つは他者に説明する事の難しさでした。私の卒業論文の内容は寺院社会という一般から見ればマイナーな分野を扱っています。そのために討論においては用語に関

する質問が多く見られました。報告後に個人的に言われた言葉としても「全体的に分かりにくかった」「二字以上の熟語のほとんどに説明が欲しかった」というような厳しいものが見られました。

私たちは普段、似たような分野を研究している院生の方々や教授と接する事が多く、内部で報告を行う時には時代背景や専門用語に関しては理解してもらっていることをつい前提としてしまいがちです。そのような環境に慣れすぎて甘えていた事が今回の私の報告における問題点を生み出した一因だったと思います。

もう一つは説明する側とされる側とで興味・関心における相違が大きい事があるという点です。他の報告者に対しての討論においてですが「取り上げられている人物の顔が浮かんでくるような論文が好ましい」という発言が有りました。正直な意見を述べさせて頂ければ、それは学術論文のすべきことではなく、歴史小説の領分ではないかと思いはあります。しかし人が歴史に対して興味を持つのは、人間性についての興味から始まることが多いのは事実であります。ならば歴史学としてもある程度はそういった要望に応えていく必要もあると思われる。

学問の専門化・細分化の行き過ぎが指摘される昨今、上記の2点は一般社会との関わりを考える中で、歴史学において重要な点であると考えられます。しかしそれだけにとどまらず、上記の二点は私たち個々人においても重要であります。



私は今年の4月から故郷に帰り、市役所の職員として働きます。当初は市民課や年金課の窓口で、直に市民の皆様と接する仕事をする事になっていました。今回の報告で学んだ、他者に対する分かりやすさ、あるいは他者との興味・関心の違いに気をつけて職務を果たしていきたいと考えております。

最後になりましたが、発表の機会を与えて頂いた史料ネットの運営委員の方々にお礼を申し上げます。

(ひがき・かずし／大阪大学文学部卒業生)

## ■ 地域史卒論報告を終えて

山田 美佳

今回このような場で発表をさせて頂いて、思っていた以上に収穫がありました。

他のお二人の発表にはもちろん、私のテーマに対しても、たくさんの質問やご意見を参加者から受けました。このことで、歴史に対する関心が、教育機関とは違うフィールドでも大きく存在することを実感でき、大変貴重な時間を過ごすことができましたと思います。



だからこそ、もっとこうしていたら…という反省点もたくさんあります。とりわけ、自分の発信する事柄を、みなさんがどのように解釈してくれるのか、もう少し考えて発表に挑むべきだったと振り返っています。研究テーマの結論について、「これは、もっと違う観点から考えた方がいいのではないか」といったご意見が複数ありました。たしかに、それも貴重なご意見で新しい見方の可能性を示唆してくれました。

しかしながら、自らの結論に至ったプロセスを整理する作業を怠ってしまったため、納得のいかない方も多かったのではないかと思います。良いか悪いかの判断は難しいですが、自分の伝え方によれば、また違った議論ができたのではないかと、そう考えています。伝えたいことを上手にくみ取ってくれる、いうなれば「都合の良い」学校での報告とは違った反省点を掴むことができ、今後社会に出て働く者として良い緊張感を与えてくれました。

そして、報告会により以下のような感想も同時に持ちました。私や他の発表者、そして共に四年間学んできた学部生は先生方・院生から、日本史を通して

物事のとらえ方を養ってきました。発表を終えて、これらは、大学内という限られた枠の中で循環させるのではなく、大勢の人と共有することでさらに研かれるものだと実感できました。先の結論に対するご意見もその一例です。今回の報告会のように、地域社会はどこであってもそれをかなえる身近な場でありつづけるだろうし、微力ながら、自分自身が働き掛けてそのように維持しつづけていきたいと思います。

その前提となる史料の保存については、この四年間での授業や実習、卒論作成を通じて一学部生からみても、解決がいそがれる課題だ、との思いでいます。膨大な史料を残すことは、すぐに意味が付与されるものではありませんが、上述のような文化的な活動を続けていくために、地域の方々の支援が必要だと、教えられてきました。今後、歴史とは関わりのない職につきますが、このことをずっと心にとめ、人々が持つ固有の興味・関心が歴史像を構築して、共有の財産になる営みに、私も一助していければと考えています。今の私には、ひとまず手元にある史料に触れることしかできませんが、これからも地域社会の中で、可能なことを見つけ継続していきたいと思います。

今回は、稚拙な報告でありましたが、発表の場を頂き、本当にありがとうございました。改めてお礼を申し上げます。

(やまだ・みか／神戸大学文学部卒業生)

## ■ 地域史卒論報告を終えて

森田 順子

**先** 日の報告会では大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。説明が不十分な箇所もありましたが、その分参加者の皆さんには色々な質問をいただき、勉強になりました。

私の報告テーマである出石鉄道は大正から昭和初期にかけて地域住民を中心に計画が進められたものですが、こういった地方鉄道について何かしら知っておられる方は少ないようでした。参加者からは、車輛の種類など技術的な部分での質問、また出石鉄道によってどれだけの物資が輸送されたのか？といった質問があげられま



した。今回の報告では重点の置き方が異なっていたのでそれらの質問に対し多くを説明できなかつたのが残念でした。今回は当鉄道が開通するまでの経緯を各団体・人物の動きから出来るだけ読み取って紹介したつもりですが、紆余曲折を経て鉄道開通に至った後の運営状況など、やはり技術的な問題が大きく関わってくる所をもっと詳しく説明できれば良かったと思います。ただ、地域の方々に広く興味を持っていただけるテーマだったことが実感できたのは一つの収穫でした。また史料をまとめ直す機会があれば、そういった部分も重視していくつもりです。

また、報告が終わってから伺ったのですが、当鉄道に重要な役割を果たした人物の子孫の方が報告を聞いて下さっていたことが分かりました。ご先祖と出石鉄道の関わりがあった事については以前から伝え聞いておられたそうですが、株主データや営業報告書の中に残っている総会での発言などは初めて見るご先祖の一面であり、とても興味深く見られていたとの事です。私にとっても、こういった史料は、それまでよく分からなかった当鉄道建設のイメージを一つずつ掴んでいくきっかけになったものであり、それ以上に地元の生き生きとした歴史を肌を感じ、ワクワクした瞬間を与えてくれる、大切なものでした。このような史料からご先祖や地域への理解を深めて下さったという事をとても嬉しく思います。

以上のように当卒論研究によって得たものもありましたが、出石鉄道、ひいては但馬・出石地方の研究課題、これはまだ多く残っています。そこに取り組んでいけるかどうかは、これからの史料保全活動が鍵となるでしょう。今回の報告でも指摘したように、私は地元での史料収集の中で史料整理の現状を知り、身近な史料保存活動の大切さを痛感しました。就職で故郷は離れることになりましたが、地域の一員として何らかの取り組みをしていきたいと思っています。また、このような地域史料に対する共感の場が益々活発に設けられることを願っています。ありがとうございました。

(もりた・じゅんこ／神戸大学文学部卒業生)

#### 2009年3月8日 「第4回 卒論報告会」当日アンケートから

- 新聞で見えてはじめて参加しました。どのテーマも、内容的には分析・研究不足の点もあったが、各担当者が一生懸命努力して取り組んでいる姿勢が感じられた。(60代・男性)
- 報告を面白く聞かせていただいた。真摯な態度でよかった。(60代・男性)
- 異なる題目ですが、奈良、大阪、出石鉄道とユニークな研究を聞かせていただき感謝です。また、若い方々の研究発表を聞くのは少ないので新鮮でもありました。(70代・男性)

# 兵庫津歴史講演会開催される！！

中野 賢治



2009年2月7日、兵庫津歴史講演会が兵庫公会堂において開催された。まず藤本史子氏により「室町時代末期から江戸時代初期にかけての兵庫津の空間復元と変遷」と題する講演があった。そこでは考古学の見地から、発掘調査によって見えてきた中世の兵庫津の実態について、町屋の方向性やその構造の共通性など、当時の都市景観の復元をもとに、戦国時代末期から江戸時代の初期にかけて、そうした都市景

観に大きな改変が加えられていたこと、さらに同時期の堺の状況を例に、摂津地域・大阪湾に存在する港湾都市が経験した歴史的な画期として兵庫津の状況を一般化し、その重要性が語られていた。

続いて、神戸大学・関西学院大学能楽部のみなさんによる「敦盛」・「屋島」・「草子洗小町」・「玄象」の仕舞の上演があった。いずれも神戸にゆかりのある曲で、なおかつ上演頻度の高い人気曲であるという。個人的には、普段はなかなか接することのない古典芸能の世界に、歴史的な接点を感じつつ、よい形でふれることができたと思う。

続いて天野忠幸氏から「戦国時代の兵庫津と織田・豊臣政権」と題して講演があった。





考古学の藤本氏に対し、こちらは文献史学の立場から、戦国時代の兵庫津が三好政権・織田政権とどのように接していたか、その後織田政権下の荒木村重の反乱や兵庫城の築城と廃城などを経て、兵庫津が商人による自治組織によって運営されるようになったかというアウトラインを中心に、松永久秀や池田輝政など、

戦国武将と兵庫津の関係などについても言及があった。天野氏の軽妙な語り口も聞き所であったらう。

会場は事前申し込みで締切が出るほどの大盛況であり、改めて中世の兵庫に対する関心の強さを思い知らされた。大河ドラマなど「戦国ブーム」が取りざたされる昨今、自分の住んでいる地域と全国的な政治・社会の歴史がどのように関連するかについての興味が高まっており、それに応じる企画や講演が人々から求められていることのあらわれだといえる。

(なかの・けんじ／歴史資料ネットワーク副事務局長)

#### ☆近刊紹介

## 水損史料を救う 風水害からの歴史資料保全

岩田書院ブックレット アーカイブズ系⑫

松下正和・河野未央 編

2009年5月刊

A5判・156頁・並製本

ISBN978-4-87294-564-5 C1321

1600円(税別)

「阪神淡路大震災後の被災歴史資料保存から生まれた歴史資料ネットワークにとって、2004年の風水害への対応は、新たな画期となる出来事でした。…大規模な風水害の場合、汚水で水損した紙史料は、高温の中ですぐにカビが繁殖し、腐敗が始まります。家屋も浸水の場合のみは、次の日から片付けが始まり、保全不可能と判断された紙史料はそのまま廃棄されてしまう可能性が高くなります。このような地震と異なる大規模水害へいかに対応するのか。…私たちは地震とは異なる水害被災地での活動に取り組み、様々な問題にぶつかってきました。被災地での組織結成の支援など、地震の経験を活かし、更に発展させることができた部分とともに、これまで経験のない、水損時の史料保全の方法を現場で開拓していくことになりました。」(本書「まえがき」より)

# 産業技術史資料の廃棄が残した課題

廣川 和花

1980年代に「国立産業技術史博物館」構想のもと展示用に収集され、万博記念公園鉄鋼館に保管されていた千数百点の機械類が、2009年3月末をもって廃棄処分された。「国立産業技術史博物館誘致協議会」が収集したこれらの資料のうち、ごく一部が香芝市二上山博物館（奈良五位堂の鋳物師杉田家の古文書と用具類）・尼崎市立文化財収蔵庫・国立科学博物館などに引き取られ、段ボール箱250箱の紙資料2万点超と一部の小型道具類は大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）が緊急避難的に引き受けた。大阪大学総合学術博物館でも、大阪の町工場で使用された旋盤とベルト掛製釘機を引き取り、館内で展示している。

産業史博物館構想の頓挫以降死蔵されてきたこれらの資料の廃棄の直接の契機は、保管場所の鉄鋼館の改装にともない、立ち退きを求められたことにある。廃棄直前まで関係者が尽力されたようであるが、結果として貴重なものづくりの歴史的遺産群が失われることとなったのは残念である。3月下旬というタイミングや、全点目録が存在しないことも、救出の大きなネックとなった（現場に行ってみればいいものを選定するしか方法がなかった。数トンの重量のものがざらで、運搬にコストがかかるため緊急避難させることも困難）。廃棄決定後の混乱の中で



▲ 社運協による第80回大阪地方メーデー記念「働く人々の歴史展」（2009年4月24日～5月2日、エル大阪）にて展示された救出資料（工具・小型機械類）

致し方ない面もあったとはいえ、元の寄贈者や関係機関との調整がもう少しでも早く円滑に運んでいけばという気がしてならない。廃棄されたことすら知らない原蔵者も多いと思われる。紙資料を引き取ったエル図にしても、引き取り依頼を受けて動かれたのではなく、廃棄の情報を独自に得て「産業資料救出作戦」（同館のblog <http://d.hatena.ne.jp/l-library/>参照）と銘打って活動されたものである。

エル図は、（財）大阪社会運動協会が、橋下府政「改革」で廃止された大阪府労働情報プラザを引き継ぎ、大阪社会運動資料センターとあわせて2008年に誕生させた民間運営の図書館である。新生エル図は、それまでの労働専門図書館から、経営側の資料にまで範囲を広げた産業労働資料館への道を模索している。今回引き受けられた250箱のうち、50箱を収蔵、収集対象外の資料80箱を他図書館へ、残りは何らかの方法で処分するということである。府政「改革」のあおりをまろに受け厳しい運営を余儀なくされているエル図のような民間の機関がこうした資料の引受先にならざるを得ない現状は異常というほかない。そして今回、歴史研究に大きく関わる資料群の救出に歴史学関係者が関われないままであったことを、反省も込めて歴史資料救出失敗の事例として記憶しておきたいと思う。

（ひろかわ・わか／大阪大学総合学術博物館）

#### 【編集後記】

○新緑の心地よい季節がやってきました。みなさま、いかがおすごしですか。  
○今号は、大阪府における史料保存に関する危機的状況について、廣川和花さんに特別寄稿いただきました。多くの自治体も同様の問題を抱えていることと思います。「市民」であるわたしたち自身につきつけられた課題です。  
○史料ネットでは、皆様の寄稿を募っています。さまざまな問題提起、話題提供をお待ちしています。（ひ）

史料ネット NEWS LETTER No.57 2009年5月29日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565（開室時間 平日の午後1時～5時）

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>

e-mail:[s-net@lit.kobe-u.ac.jp](mailto:s-net@lit.kobe-u.ac.jp)

**史料ネットブログ開設しました！！**

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net)